

令和2年度第3回東広島市地域公共交通会議 議事録

1. 日時

令和2年12月9日(水) 10:00～

2. 場所

東広島市役所 3F 会議室 303

3. 出席者

塚井会長、山本委員(代理:荻田室長)、田島委員、河内委員、沖口委員、坪内委員、山田伸二委員、吉田委員、片山委員、古田委員、景山委員、米田委員、長田委員(代理:印居主査)、山田和孝委員(代理:松田主任)、中谷委員、鎌田委員、木原委員

4. 議事次第

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 審議事項
 - (1) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について……………(資料1)
 - (2) 西条市街地循環バス「のんバス」の停留所の新設について……………(資料2)
- 4 報告事項
 - (1) 新モビリティサービス実証実験の実施状況について……………(資料3)
 - (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について……………(資料4)
- 5 その他
- 6 閉会

5. 発言要旨

審議事項(1) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

○事務局 <資料説明>

○塚井会長 別添1について、特記事項として、コロナによる影響等を記載してもいいのかなと思います。このあたりは、広島運輸支局さんいかがでしょうか。

○米田委員(広島運輸支局) 特に今年はコロナの関係もあるので、書いておかれてもいいと思います。達成状況については、上から1・2段目に目標は達成できなかったとあるので、その辺りの関連性をしっかりと分析し、記載いただければと思います。

○塚井会長 では、文案をまた少し考えて、若干修正いただくということでお願いします。それでは、地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、本会について合意したとしてよろしいでしょうか。

○全員 <異議なし>

○塚井会長 修正点については、事務局で作成いただき、私の方で最終確認するという形にさせていただきますと思います。

審議事項(2) 西条市街地循環バス「のんバス」の停留所の新設について

○事務局 <資料説明>

○田島委員(芸陽バス) 循環バスの停留所新設には賛成するのですが、停留所のバスの停車位置について、バスが安全に停められるような配慮をお願いします。

○事務局 先日両バス事業者様と現地確認させていただき、その際にご要望がありました縁石切下げについて対応させていただこうと思っています。年度末または年度明け早々には対応させていただく予定です。

○塚井会長 バス停が増えすぎると、事業者さんにとっては運行時間がタイトになるなどやりくりが難しくなっていくこともあります。そのため、既存のバス停の利用状況もご確認いただき、事業者さんからの情報を集めていただければと思います。今回の場所は、特定の時間帯にはおそらく確実に利用が見込まれるであろう場所ですので、そのあたりも合わせてデータを集めていただければと思います。

それでは、西条市街地循環バス「のんバス」の停留所の新設について、本会について合意したとしてよろしいでしょうか。

○全員 <異議なし>

○塚井会長 ただいまの件について、合意したとさせていただきますと思います。

報告事項（1）新モビリティサービス実証実験の実施状況について

○事務局 <資料説明>

○塚井会長 このように、小売や貨物などのサービスが色々な乗り物に統合・付加されていくという形が、この別紙3に記載の小売MaaSの一つの形になろうかと思われれます。そうすると、公共交通会議の枠を超えつつあるという印象もあります。

この事業に関しては、おそらく小売事業者さんが現状一番大変で、運ばれる事業者の方に、より変わったサービスが要求されるということはないと認識しています。

注文方法についても、電話注文とオンライン注文で店舗運営の観点と利用者の利便性の観点でそれぞれに感じ方があると思います。そういう意味で、できれば様々な方に興味を持っていただき、参加いただけるように周知いただければと思います。

○米田委員（広島運輸支局） 送迎と配送が同時という形態だと思いましたが、1便が終わって空いている時間に配送をするということなのか、想定があれば教えてください。

○事務局 まだ詳細については詰まっていない状況ですが、最初にご指摘があったように、利用者の方が多くなれば、かなり混乱が生じるということで、モニターという形で登録された方でスタートするというのを想定されていると伺っています。

○米田委員（広島運輸支局） また情報ありましたら教えてください。

○塚井会長 様々な課題により準備が大変なようで、そのあたりの課題をクリアしながら進めると聞いています。また情報提供できる機会などに、詳細がわかりましたらお願いします。

報告事項（2）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

○事務局 <資料説明>

○塚井会長 事務局案の説明は以上ですが、昨今の事業者様の対応につきまして、現在の事業の状況や、感染症対策等について、各事業者様からご発言いただければと思います。

○荻田委員（JR西日本） コロナ感染症対策について、1点目に、現在主な線区（東広島市関連では山陽本線の西条広島間）において、時間帯別の混雑状況、広島駅の混雑状況をホームページ上に公開しています。駅の混雑度についても、スマホアプリ「WESTER」でご確認いただけます。

2点目として車内の対策について、通勤車両、特急車両、新幹線車両については、車両に設置している換気装置・空調装置によって常に換気を行っています。新幹線は概ね6～8分程度で車内外の空気が入れ替わります。通勤車両や特急車両は、どの車両も換気対策を行っています。消毒と抗菌について、車内の手すりやつり革は定期的に消毒を実施しています。あと、ウイルス繁殖を長期間抑制できるような抗ウイルスの抗菌剤を噴霧することにより車内を抗菌加工しています。

3点目は駅における対策です。まず1点目、駅における対策の中で、新幹線駅、在来線の主要駅に、消毒液を設置しています。2点目に、抗ウイルス抗菌対策として、駅の自動券売機、自動精算機に抗ウイルス・抗菌剤の噴霧による加工を施しています。またエレベーターボタンに、抗ウイルスの噴霧加工や、シートを張る対策を実施しています。3点目、飛沫感染防止ということで、改札やみどりの窓口にビニールカーテン等を設置しており、みどりの

窓口ではお並びいただく際の足元待機位置の表示もしています。最後に4点目ですが、お客様へのお願いとして、列車内・駅構内において、マスク着用や、会話を控え目にさせていただくこと、並びに新幹線及び特急のご利用時に座席の回転（対面すること）はご遠慮いただくことをお願いしています。またラッシュ時のご利用を避ける時差通勤などへのご協力を車内アナウンス等でご案内しています。

○田島委員（芸陽バス） 緊急事態宣言時の外出自粛の影響を受けて、4・5月はかなり利用者が減少している状況で、以降少しずつ持ち直し、現在は昨年の80%前後まで利用者が回復しています。しかしながら、テレワーク等が急速に進展したため、コロナ後に利用者が完全に戻るのかということ、そこまで戻らないのではないのかというのが我々の見方です。そのため、今後も厳しい経営状況が続いていくと思いますが、何かしら対策を打ちながらやっていきたいと思っています。

次に、車内での感染防止対策としては、乗務員の朝の体温測定や、ビニールカーテンを付けて、なるべく接近しないようにしています。バスの車内の換気については、路線バスで約3分（換気扇とドアの開閉による空気の入替り）、高速バス・観光バスは約5分（エアコンによる外気導入、換気扇による強制排出）で、理論上一循環するとされています。また、運転手の後ろの席は利用をご遠慮いただき、お客様と運転手のお互いが距離を置くことで、感染予防をしています。

車内の消毒について、日々の消毒はもちろんのこと、3ヶ月に1度程度抗ウイルス対策を行っており、継続的に菌が広がらないようにしています。

○河内委員（中国JRバス） 感染予防対策ですが、社員の体調管理や、乗車券販売所やバス車内の乗車口共に消毒液を設置しています。また車両についても、全車両に抗ウイルス除菌加工を実施しています。加えて、手すりや吊革等のお客様が触れる場所については、運行の途中・待機してる時も含めて、消毒を実施しています。また空調関係も、換気扇・外気導入を実施することで空気を入れ替えています。また、運転席付近にビニールカーテンの設置や、高速路線についてはブランケットの配布を停止、トランクの荷物をお客様自身で積み下ろしをしていただく等の措置を行っています。またお客様についても、車内でのマスク着用・咳エチケットのお願い、また車内で会話を控えていただくようにホームページや車内ポスター等で周知を図っています。

現在の収入状況ですが、3月頃からコロナの影響が出始めたため、特にこの上期（4月5月）について収入が大きく落ち込んでいる状況です。特に弊社は高速路線の割合が非常に高い事業者ですので、この上期については対前年で約30%（70%減）という状況であり、非常に事業運営も厳しい状況になっています。今後についても、テレワークの拡大や、高速バス等では県跨りの移動の自粛、また観光利用の減少で、この先も厳しい状況が続くのではないかと考えています。引き続き、経費削減等も行いながら、何とか路線を維持していくように努めていきたいと思っています。

○沖口委員（広島電鉄） 学校の休校や外出自粛要請などによりバスの利用者が大幅に減少し、対前年で40%を下回る状況になり、5月からは3段階にわたって、臨時減便を行っています。しかしながら、3密を回避するためには、大幅な減便をすることもできず、その影響は極めて深刻で、非常に厳しい状況が続いていました。現在では、対前年と比較して、平日で80%、休日で70%まで回復していますが、在宅勤務の増加、他の交通モードへの変更等により、元の状況に戻ることは難しいのではないかと考え、さらなる経営悪化が見込まれると考えています。

今後は、地域特性や利用実態に応じた役割分担のもと、路線再編やダイヤの見直し等を実施するとともに、持続可能なバス交通を実現するため、行政の皆様へ支援拡充をお願いするなど、関係各所と連携を図り、効果的な公共交通ネットワークの形成に取り組んでいきたいと考えています。

感染防止対策については、利用者の皆様へ安心して利用していただくために、定期的な車両の清掃、また抗菌抗ウイルス効果が持続する成分を含んだ消毒液を車内で週2回実施して

います。また換気扇や窓開けによる車内の換気を実施することで感染防止に努めています。混雑回避については、参考として、混雑の状況をホームページに情報発信するなど、お客様が利用しやすいよう努めています。

○**山田委員（タクシー協会）** タクシーとしては、非常に密室で狭い空間の中を、毎日約30回のご乗車に対応しています。取組みとしては、朝の乗務員の体温チェック、毎日アルコール消毒液を必ず車に積んで、1人1人ご乗車していただいた後に、噴霧を行っています。

換気対策としては、一般乗用車を外気にすることで非常に菌などが流れるということで、タクシー協会全体で行っています。業界としても、非常に危険率が高く、今回のクラスターについても、保健所の方からも2名検査するようという話も受けています。国土交通省の方からも、必ずマスクの着用をするようというステッカーを用意していただきながら、マスクの着用を推進しています。今後は、オゾンの発生機を1台1台設置することも目標にして、給付金もいただいているので、フルにやっていきたいと思っています。

○**坪内委員（私鉄中国地方労働組合）** 現場としては、換気扇を基本にした換気、また一般路線においては、お客様のご協力を得ながら窓を開けての換気にも努めています。また、車内に常備しております消毒液を、日に数回車内に噴霧し、除菌をしています。また、お客様にマスクの着用してからの乗車にご協力をお願いしています。

○**塚井会長** 事業者からお話しいただきましたが、せっかくの機会なので、利用者の視点から気づいた点があればしたいと思いますがいかがでしょうか。

○**古田委員** バスを利用する際、PASPYを利用するが、チャージできるところが少なく思います。特に竹原などでは、銀行のATMかバスの中しかなく、残高が少ない時に車内でチャージすると、利用客が多い場合は待ってもらうことになります。乗務員さんがすごく丁寧に教えてくれてやりやすいですが、お年寄りの方々が今のビニールシートやマスクによって聞こえづらいようで、自分が待たせているという感覚に陥り、すごく焦っているようです。そのため、コンビニ等でチャージできるなど、先にチャージして乗り込めるようになればいいのかな、と思いました。

また、東広島市内のタクシー会社さんで、態度が悪い様子が一部見られます。停めてはいけないところに停めてお客さんを待っていたり、邪魔になっているのを指摘したらすごい剣幕で言い返しているのを見たことがあります。全員ではないと思いますが、そのような運転手さんがいると、利用者からすると、タクシーは便利だがマナーが悪い、といった思いになるのではと思います。

○**吉田委員** 小・中学校の休みが多く、子どもたちの学力や体力などが、非常に落ちてると聞くことが多いです。それ以上に、高齢者の体力や認知能力などが、出かけないことで非常に落ちている状況で、例えばバスに乗ったり、電車に乗ったりする際に、厳しい言葉で言われると、非常に焦ったりさらに認知能力が落ちてしまいます。それによってさらに出かけないという状況になりえますので、ぜひとも、大変だと思いますが、丁寧な説明や対応を今以上に留意してもらえたら助かります。

○**塚井会長** まず最初の感染対策あるいは事業者さんのそれぞれの状況に関して質問確認等ありますか。

○**鎌田委員** 先ほど事業者様の方から、感染対策・換気もしっかり行われるということで、4月5月頃はよく報道もされていたように思っていますが、どの程度の住民の方々がその対策を徹底してるのか、理解されるのかがわかりません。もう少しPRなどをしっかりしていないと、利用者の方が戻ってくるのが非常に難しいんじゃないかと思っています。今の感染対策のPR等は、どのようにされているか教えていただきたいです。

○**荻田委員（JR西日本）** 車内放送では、換気を行っている旨の放送はしていますので、ご利用の際には皆さんに周知させていただいています。在来線では、窓をお客様ご自身に開けていただくこともできます。在宅者に対しては、報道での周知がメインになってるのかなと思っています。

○**米田委員（広島運輸支局）** 公共交通機関の換気対策について、バスに関しては中国運輸局

と広島県等で連携して、公共交通セミナーを開催しており、実際の車両を使ってバス換気のデモンストレーションを行いました。こちらがニュースとして流れており、そういったところで注目してもらってるのかなと思っています。

○塚井会長 換気や安全性について報道やラジオなどで放送されているのは承知しています。しかし、周知が十分なのかという話になると、なかなか難しい部分もあるのかなと思います。東広島市が持っているリソースでいうと、広報や学習に関わることで、過剰に恐れることはないことの周知を検討してはと思います。また、FMなどで繰り返し広報を図るのもいいと思います。

この先どうなるかは来年以降の動向を見ないと分かりませんが、現状できることは、危険な時はもちろん外出を控えることは基本としつつも、過度に恐れることはない、しっかりと正しい情報を伝えていくことである、と私は思いました。

リモートの参加の方はいかがでしょうか。

○松田（県地域力創造課） 公共交通の換気対策等の周知方法については、東広島市さんだけの話ではないと思いますので、課内でも考えたいと思います。あとは、全体的な生活交通維持について、県9月補正で、公共交通事業者さんの運行支援、継続支援の事業を用意し、支援を進めています。併せて9月補正で、MaaSの推進といった事業も行っています。東広島市さんは、県内でも先進的に取り組んでおられる市町さんですので、ぜひ一緒に様々な点においてしっかり進めて参りたいと思います。

○塚井会長 先ほど古田委員と吉田委員からの件ですが、タクシー乗務員の件については、全体に対するイメージもあるので、引き続きご指導いただく以外にないのかと思います。

聞こえの問題について、マスクをしていると話しづらくなり、それが聞こえにくいことにつながるのは当然ですので、何か対策が必要かと思います。乗務員の方の丁寧な接遇はもちろんです。でも、そもそも文字が小さいと見えない、声も聞こえにくいということを前提に、マイク等の機器がある場合は活用して、できるだけ丁寧な接遇をお願いできればと思います。焦らないでというのも難しいですが、後ろの方がイライラしてるような状況は時と場合によってはあるし、以前からそういったことが公共交通、ないしは外出の抵抗になっているのではという話を聞きます。一層そういう問題が顕在化しているので、これは有意義なご指摘だったと思います。この件につきましてまた情報共有するなどしていただければと思います。

最後に何かありますか。

○荻田委員（JR西日本） 広島支社管内において、2021年春のダイヤ改正により、最終列車の前倒し等大幅な改正を予定しています。内容については、次回の会議でお話しさせていただきたいと思っています。

○山田委員（タクシー協会） 先ほどのご意見ありがとうございます。地域の中で多くの事業者がいるので、ぜひともタクシー協会の方へどんどんご意見を寄せていただければと思います。我々も指導させていただきます。会社名等を言っていただければ、指導させていただきます。申し訳ありませんでした。

○塚井会長 以上を持ちまして会議を終了します。